



今日から始める防災 備えるチカラ

災害は、いつ起こるか予想ができません。

直近では、6月18日に発生した大阪北部地震、6月29日に米原市で発生した竜巻、先月発生した西日本豪雨など、身近で起こった大規模な地震や風水害に危機感を感じられた方も多いのではないのでしょうか。

市内では、これらの災害による目立った被害はなかったものの、他人事ではありません。私たちが住む甲賀市でも、今までに大きな災害が起こっています。また、将来発生すると言われる「南海トラフ地震」では、今までに経験したことのない大きな被害があると予想されています。

災害から身を守るためには、自分の命を自分で守る「自助」、地域住民で助け合う「共助」、行政が行う「公助」をバランスよく高めることが不可欠です。

もしも今災害が起こったら、十分な備えはできていますか。これから台風が頻発する季節がやってきます。今一度、家庭や地域で、防災について考えてみませんか。

昨年の台風第21号を受け、 防災の予算を確保

— 水口町八田区 —



■ 区長 宮治一幸さん(中) ■ 区長代理 宿谷忠明さん(右)
■ 防災委員長 宮治一八さん(左)

昨年10月の台風第21号では、土砂災害の恐れがあり、約20人が公民館へ避難、一晩を過ごしました。その際、市や学区の防災倉庫から、毛布などを車で運んでもらいましたが、やはり区でも備蓄が必要だと感じました。昨年以來、区で防災の予算を確保し、計画的に防災倉庫へ備蓄品をそろえるようにしています。

物資などの備えはもちろん必要ですが、最も大切なのは区民のつながりだと思っています。八田区では区民の集まる機会がたくさんあり、今年の清掃活動では、小学生を含め約1000人の参加を得ました。このように日頃から区民の交流があれば、避難所で過ごさなければならなくても、安心感があります。



昭和28年8月 多羅尾水害 土砂に押しつぶされた家屋（信楽町多羅尾）



平成25年9月 台風第18号 濁流によって流された信楽高原鐵道の鉄橋（水口町虫生野・牛飼）



平成29年10月 台風第21号 ため池の堤が決壊し、下流に土砂が流出（水口町下山）

をもたらしました。

■昭和28年8月 多羅尾水害

夜から朝にかけて300ミリを超える豪雨が、多羅尾村（当時）を中心に襲い、随所で大規模な山崩れが起こり、家屋や田畑が埋没または濁流に押し流され、道路は寸断されました。避難の余裕すらなく、一瞬のうち死者44人、村の3割の家が全壊または半壊という甚大な被害

■平成25年9月 台風第18号

気象庁が全国初の「特別警報」を発令し、市内全域で土砂崩れや、床上浸水80件以上、床上浸水160件以上の住宅被害が発生しました。また、国道や県道など、生活に欠かせない幹線道路の崩落なども相

次ぎ、信楽高原鐵道は、杣川を渡る鉄橋が32mにわたって流失しました。

■平成29年10月 台風第21号

台風にとまなう大雨の影響で、民家への土砂流入や、床上・床上浸水、ため池堤防の決壊など90件以上の被害が発生しました。